

事後評価結果（平成27年度）

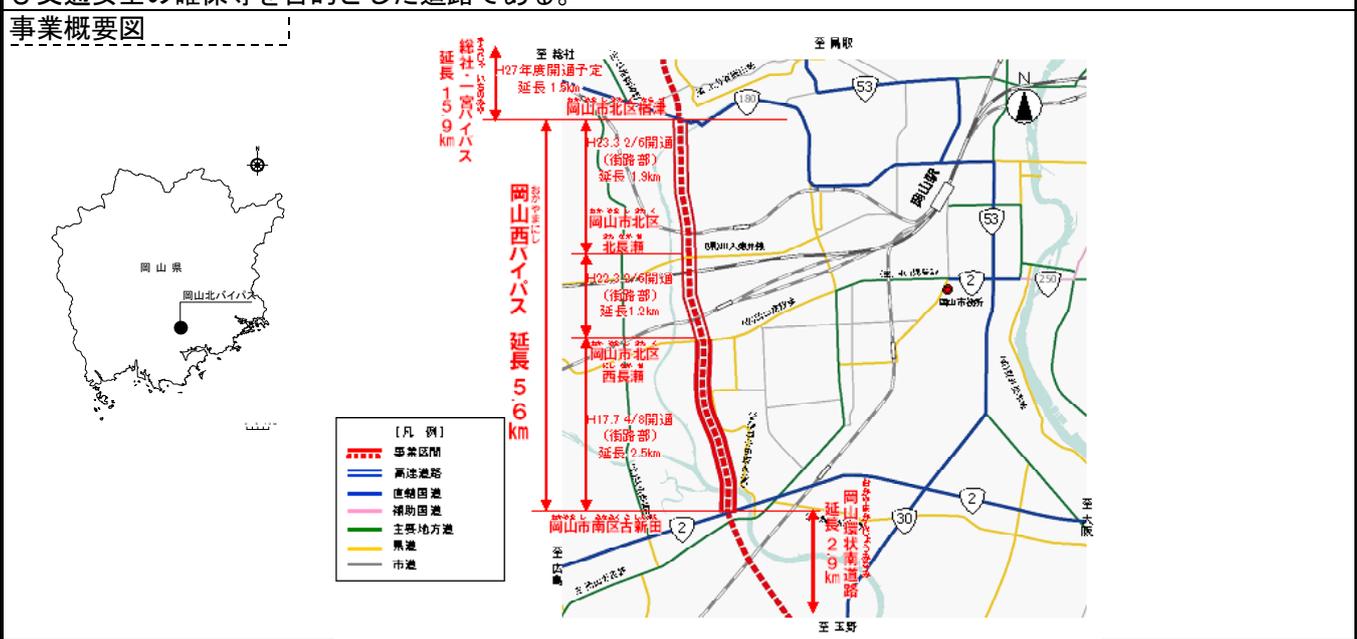
担当課：中国地方整備局 道路部 道路計画課

担当課長名：岡本 雅之

事業名	一般国道180号 岡山西バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省
起終点	自：岡山県岡山市南区古新田 至：岡山県岡山市北区櫛津			延長	5.6 km

事業概要
 一般国道180号は、岡山県岡山市北区から島根県松江市に至る延長約170kmの主要幹線道路である。
 岡山西バイパスは、岡山県岡山市に位置する延長5.6kmのバイパスである。

事業の目的・必要性
 岡山西バイパスは、地域高規格道路「岡山環状道路」の一部を形成し、岡山市中心部の交通混雑の緩和及び交通安全の確保等を目的とした道路である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	S54年度	用地着手	S57年度	供用年	(当初) - / H34年度	変動	- 倍
		都市計画決定	S53年度	工事着手	S59年度	(暫定/完成)	(実績) H22年度 / -		
	事業費	計画時	(名目値) - / 約910億円	実績	(名目値) 約711億円 / -			変動	- 倍
		(暫定/完成)	(実質値) - / 約823億円	(暫定/完成)	(実質値) 約627億円 / -				
	交通量	計画時	- / 86,900 台/日	実績	21,100~29,200台/日 / -			変動	- %
		(暫定/完成)		(暫定/完成)					
	旅行速度向上	18.3	→	27.7 km/h	交通事故減少	216.3	→	172.5 件/億台	
	(供用前現道→当該路線)	(供用前年次) H11年度		(供用後年次) H27年度	(供用前周辺→当該路線周辺)	(供用前年次) H13~H16年		(供用後年次) H24~H25年	
	費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	1.8	総費用	972億円 (事業費: 941億円 維持管理費: 31億円)	総便益	1,707億円 (走行時間短縮便益: 1,445億円 走行経費減少便益: 168億円 交通事故減少便益: 94億円)	基準年	H16年
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.3	総費用	1,109億円 (事業費: 1,082億円 維持管理費: 27億円)	総便益	1,465億円 (走行時間短縮便益: 1,202億円 走行経費減少便益: 149億円 交通事故減少便益: 115億円)	基準年	H27年
	事業遅延によるコスト増	費用増加額	-	億円	便益減少額	-	億円		
	事業遅延の理由								

事業の効果等	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞による損失時間の削減【6,953万人・時間/年⇒6,898万人・時間/年（約0.8%削減）】 ・総社市から山陽新幹線岡山駅へのアクセスが向上【総社市役所～岡山駅、約65分⇒約58分】 ・玉野市から岡山空港へのアクセスが向上【玉野市役所～岡山空港、約110分⇒約84分】 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津山市から水島港へのアクセスが向上【津山市～水島港、約180分⇒約136分】 <p>③安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設へのアクセス向上【岡山市立市民病院⇒岡山大学病院：16分⇒11分】 <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業による環境の変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価の対象外事業である。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業評価監視委員会の意見	<p>審議の結果、事業の効果が発現しており、当該事業に関しては今後の事後評価及び改善措置は必要ないとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山西バイパスを利用し、岡山市との発着、または、岡山市を通過する商用車の発生集中量が多い、倉敷市、早島町、津山市の製造品出荷額等が平成15年から平成25年にかけて1.1兆円増加（1.2倍）。 ・沿線地域の大型小売店舗数が平成17年から平成26年にかけて7店舗増加（1.5倍）、同地域の地価公示価格が平成17年から平成27年にかけて伸び率が1.12で増加傾向。 ・平成20年7月に岡山西バイパスを経由する新設バス路線が開設し、バス空白地帯が減少、約5,800人をカバー。 ・岡山西バイパス沿線へ、平成21年4月に特別高度救助隊「ハイパーレスキューおかやま」の活動拠点である岡山西消防署が移設、平成27年5月に岡山市立市民病院が開設し、確実な救命救急活動を実施。
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>岡山西バイパスの交差点において一時的な渋滞が発生しているものの、本事業の側道部全線開通による交通混雑の緩和など、現時点では十分な事業効果を発揮しており、今後とも安全で円滑な交通の確保などが見込まれることから、改めて事後評価を実施する必要はない。</p> <p>また、交通の分散導入など、事業目的にみあった事業効果が確認されたことから、今後の改善措置の必要はない。</p> <p>なお、岡山西バイパスの交差点における一時的な渋滞及び交通事故の発生については、交差点改良などの必要な対策を進めている。</p> <p>さらに、岡山西バイパスの本線整備については、事業中である一般国道180号総社・一宮バイパス及び岡山環状南道路などのネットワーク整備、今後の交通状況を踏まえて検討を行う。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>特に、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>
特記事項	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。